

WUB Tokyo NEWS

No. 11 2012.5.1

発行 / WUB 東京 広報委員会

発行責任者 / 平良 智広

WUB 東京 連絡先

〒154-0001 東京都世田谷区池尻4-38-8-401

昭和生化学株式会社 内

FAX 020-4623-5326

URL <http://wubtokyo.com>

E-mail mail@wubtokyo.com



INDEX —世界大会 in 沖縄 2011 報告—

- 世界大会 in 沖縄 2011 報告——上原 秀樹
- WUB-NT 新会長へのインタビュー——小畑 耕行
- WUB東京ナイト in 沖縄 2011 報告——屋良 朝男
- WUB東京 フラッシュバック(11年5月~12年4月)
- 情報発信掲示板——新入会員紹介/編集後記

世界大会 in 沖縄 2011 報告

今回のWUB世界大会(以下、世界大会)は、第5回世界のウチナーンチュ大会に併せて11年ぶりに沖縄にて開催されました。ウチナーンチュ大会が平成23年10月13日の開会式から16日の閉会式・グランドフィナーレまで開催され、(新聞報道によると)海外・県外からは過去最多で、7363人が来県、うち海外は24カ国3地域から5317人が参加されました。WUB主催イベントはウチナーンチュ大会の開催期間の前後を含め11日から17日まで開催されました。

世界大会に先立って11日に開催されたWUBネットワーク(以下、WUB-NW)理事会において、会長の牧志泰三氏が年内で退任されるのに伴い、新会長に長嶺泰泰 WUB 東京名誉会長が選任された。また、新たな副会長には新垣ロイド WUB ハワイ前会長、大城健治 WUB ブラジル会長が就任することが決まった。翌日の世界大会は、那覇市のホテルロイヤルオリオンで開幕され、ハワイやブラジルなど17カ国22支部の会員が約150名参加した。開会式でWUB-NW 牧志会長は、次世代のウチナーンチュ育成にWUBが貢献していくことや、東日本大震災、世界各地の災害などを例に挙げ、「WUBも競争だけでなく支え合う社会を目標にして、互いに支え合う関係を築いていこう」と挨拶された。続いて来賓祝辞として挨拶された沖縄県の仲井真弘多知事は「WUBはビジ

ネスを育て、世界との交流を深める人材育成にもしっかり取り組んでいる。今後もネットワークを強化し、引き続き長く取り組んでほしい」とWUBの取り組みを評価された。また、世界大会の初のテーマソングとして「Go Ahead Your Way!」が披露され開会式を元気に盛り上げた。



WUB東京 理事 上原 秀樹



世界のウチナーンチュ大会のパレードに参加する WUB 東京

開会式に引き続き、特別講演として、世界で活躍する沖縄出身者を紹介するテレビ番組「沖縄発われら地球人」「世界ウチナーンチュ紀行」で著名な沖縄テレビ放送元常務の前原信一氏から「移民のパイオニアたちから学ぶもの～海外うちなー社会と沖縄」をテーマにご講演をいただいた。

前原氏によると、復帰から10年過ぎたころから沖縄は他県とは違うと、沖縄の人たちが感じ始めていて、番組放送が始まると県民からすごい反響があった。1シリーズで終了の予定が、スポンサーも付いて最終的に25カ国を取材し計210本の番組を放映したということである。

日本本土からの移民に10数年遅れて沖縄からの移民が始まったため、共通語も話せないウチナーンチュは当初、差別されたが、それが逆に向上心や同郷意識の強化につながった。

「ナクルナイサ」の楽天的楽観的な特性、「イチャリバチョーデー」の精神で地元で溶け込んでいき、成功を取った者も多かった。環境の悪い最初の移住地から逃げ出す例も他県人より多く、忍耐強くないとの考えもあるが、「稼いだ金を沖縄に送金するために移住した」という気持ちが強く、より良い環境を求めて移動したことが結果的に成功につながった。ウチナーンチュは沖縄の心(チムグクル)と文化芸能を大切に、沖縄アイデンティティを守り続けた。「忘れるな・受け継げ・伝えろ」と、2世・3世も守り抜いている。

その一方で沖縄に残った本家の人



WUB-NW 理事会の風景 — 挨拶するロバート仲宗根 WUB Founder

WUB 世界大会 沖縄 2011



WUB世界大会で会長交代の挨拶をするWUB-NW 長嶺新会長と牧志前会長

たちは本土化してしまっていないだろうか。ウチナーグチがわからずチムグクルも無くなった本家になっていないだろうか。プロトタイプウチナンチュ（沖縄人の原型）は、沖縄から無くなってしまわないか。まさにアイデンティティクライシス。「沖縄の心」は南米にしか残らない時代が来る。「沖縄の心を訪ねる南米の旅」というツアーも10年後は十分あり得る、という内容であった。

私がWUB東京に入会したのは、学生時代に前原氏の番組を見て、ウチナンチュ意識が目覚め、沖縄にも華僑のようなネットワークが欲しいと思ったことが原点だったので、本来のウチナンチュ像を前原氏の講演で再認識できたのは非常に有意義であった。

午後からは次期ネットワーク副会長であるWUBハワイのロイド新垣氏、香港でレストラン関連ビジネスを成功されているWUB香港の又吉真由美氏、WUBベルーのルイス高原氏、シンガポールで教育関係ビジネスを展開しているWUBシンガポールの當山光一郎氏、宮古高校教諭でWUBマウイと高校生の交流を推進しているWUB宮古の波平麻衣子氏をパネリストとして、WUB創始者のロバート仲宗根氏をファシリテーターとするパネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッション終了後、「世界のウチナンチュ大会・前夜祭パレード」にWUBも参加し、国際通りを練り歩いた。沿道の両側には、世界各国から戻ってきた同胞を歓迎しようと集まった多くの観衆から、拍手や声援、指笛で盛大に迎えてもらいパレード参加者はものすごく感動していた。その後、WUBのカクテルパーティがホテルニューおきなわで開催され懇親をさらに深めることができた。

ウチナンチュ大会の閉会式の翌日の17日にはエクスカッションツアーが開催され、WUB沖縄の会員企業であるオリオンビール、ゴーヤパーク、EM、ぬちまーすを訪問し、商品等の素晴らしい説明と沢山のお土産もいただいた。

ツアー終了後、最後のイベントであるWUBウェルフェアパーティが開催された。ミルクムナリの楽曲で有名なミュージシャンの日出克のライブ等で大いに盛り上がり、次回の世界大会での再開を約束して終了した。

大会内容は以上のとおりであるが、WUB世界大会の前日に開催されたWUB-NW理事会の主な内容について補足したい。WUB東京からは会議に参加できない平良会長（世界大会には参加）の

代理として小畑副会長が参加された。理事会の中で、WUB-NWより会計報告がなされ、WUB奨学金の運用状況の説明があった。WUB奨学金は15万ドルほど集まっており、年間2名に支給している。主に南米地域の方に支給実績があること、沖縄は小淵奨学金があるので対象としていないが、WUB関西やWUB東京からも申請があれば対象となることが説明された。奨学生が学ぶハワイ大学の東西センターは南米、北米地域からもアジア、欧州等からも留学生がおり、国際交流において最適な場であるとの説明があった。WUB奨学生のヤマザト・エルケ氏からも「東西センターは沖縄の文化も学べ、世界各国からの留学生とも交流が持っており、すばらしい機会を与えてもらい感謝している」と報告があった。

また、各支部の代表からの支部の活動状況報告がなされた。その中でWUB東京／関西より、インターネット交流サイト「フェイスブック」のWUBサイトの設置報告とWUB会員への周知依頼があった。私はWUB全会員の情報を整備した会員名簿が必要だと入会当初から思っており、名簿をベースにフェイスブック的な機能を加えた（ある程度会員限定の）交流サイトができればWUBの活動に寄与するものと考えていたので、関西支部の動きを注目するとともにWUB東京のWEBマスターである高宮城悟理事にもWUB東京のHPにフェイスブック的な機能の導入も検討してもらいたいと考えている。

また、WUB世界大会期間中にWUB東京が主催するパーティ「WUB東京ナイト」を恒例通り開催いたしました。詳しくは、会員の屋良朝男理事から「WUB東京ナイト in 沖縄 2011」でご報告いたしますが、思わぬハプニングで皆さまにご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

大会を終えた感想として、本来のウチナンチュの姿を保っている南米WUBの存在が今後ますます大きくなるのが実感できた。今回のタイミングでWUB-NWの新会長が長嶺名誉会長に決定したのも大きな縁であり、意義深いものになるのではないかと感じた。その一方で、中国や香港、タイ、シンガポールなどでWUB会員の皆さまが活躍されていることや沖縄の活躍されている会員企業を見学で実感でき、とても有意義な経験となった。

最後に、WUB沖縄の東会長他、会員企業の皆さま、事務局の皆さまの丁寧な大会運営に対して改めて感謝を申し上げます。



世界のウチナンチュ大会「知事招宴」の模様

WUB-NW(ネットワーク)新会長へのインタビュー <長嶺 爲泰 新会長に聞く>

WUB東京 副会長 小畑 耕行

<新会長のプロフィール紹介>

小畑：今回はWUB-NW新会長にご就任おめでとうございます。本日は、WUB東京を代表して色々とお話を伺わせていただきますので、よろしく願いいたします。

まず、私の方から簡単に略歴に触れさせていただきますね。

長嶺新会長は、1954年、小学校5年生の時に琉球民政府の戦後初めての計画移住でボリビアに渡られたと聞いています。赤道回りの西航路で赤道祭も行なわれたりして希望に満ち満ちてインド洋、大西洋を越えられ、ブラジルのサントス港に到着後、ボリビア国、サンタクルース州のグランデ川川辺まで列車で移動され、その後は荷車で移動されたそうですが、到着はしたものの、まだ屋根の付いていない建設中の仮小屋での生活を強いられ、水もなく本格的な道具もない中で井戸を掘ったところ、水が出るには出たものの、塩水だったと伺っています。でも、塩水でも飲んでいるうちに慣れてきて、苦痛も感じなくなったとも聞いています。それほど過酷な環境だったのでしょね。後になって打ち込みポンプで井戸が掘れてからは普通の真水が飲めるようになったそうですが・・・

最初に入られた入植地は、ウチナンチュの希望を込めて「うるま入植地」と命名されたそうですが、木々が一杯生えた大変な原野で、その後「うるま病」とかが発生し、せっかく開墾した移住地を放棄して、新しい開墾地に移動しなければならなかったそうで、会長自身も「うるま病」にかかって奇跡的に助かり、結局、3度目に移住した土地に落ち着かれたそうですね。

大変な経験をされましたね。それから原始林の中で3年間過ぎた後、沖縄にいたら中学の二年生になっていた時分に、スペイン語を学ぶためにサンタクルース市に出て昼間は丁稚奉公をしながら夜間の小学校に入られ、2年後の1959年に奨学金付き寄宿制の国営ムユリナ農林学校に入学され、その後ラサル高校を終業されて、国立のガブリエル・レネー・モレノ大学の夜間部に入られたそうですね。

大学在学中に、昼間は、最初の1年間は現地の貿易商社で勤務され、その後は支店開設準備の時に入行された「ブラジル銀行のサンタクルース支店」で仕事をされて、1971年、大学卒業と同時にブラジル銀行の日本支店開設の先鋒隊として

日本に戻られたと聞いていますが・・・。

長嶺： 当時は状況が状況だけに、無知で子供の感覚では、それが当たり前だと考え大変なことだとは思わなかったのですが、いまにして思えば、よく耐えられたものだと思います。お陰さまで今の自分があるのだと感じておりますし、生かされていることに感謝の気持ちで一杯です。



<WUBの歴史について>

小畑： 前置きが長くなりましたが、皆さんに新会長のバックグラウンドを知っていただくために略歴を紹介させていただきました。

さて、ここからWUBの歴史について触れて行きたいと思います。

WUBは、1997年にハワイで世界のウチナンチュ・ビジネス会議が開催された時、ロバート仲宗根さんの提案で創設されたと聞いていますが・・・。既にHUB(Hawaii Uchinanchu Business Association)が活動していたのですよね？

長嶺： その通りです。その後、1998年のブラジルでの第2回世界大会からWUBと称するようになりました。

小畑： 統括組織も、以前はWUB INTERNATIONALと言っていたと思いますが・・・。

長嶺： そうです。2008年のブラジル大会の時に改称して「WUB-NETWORK」となり、ビジネスに加えネットワーク作りにも広がる組織となりました。

小畑： そうですか。呼称が変わり中身も広くなったわけですね。ところで、歴代の会長について教えてください。

長嶺： 初代がハワイのロバート仲宗根会長、2代が沖縄の呉屋守将会長、3代がブラジルの与那嶺真次会長、4代が沖縄の牧志泰三会長、そして5代が長嶺です。

<WUBの活動について>

小畑： ありがとうございます。次にWUBの組織構成ですが、世界に22支部があり、そのうち日本には、元々、沖縄、関西、東京の3つの支部があって、昨年12月に新たに宮古支部が設立されたので、現在4つの支部があることになりますね。

また、WUBではありませんが、WUBの行なっているスカラーシップ(奨学金制度)に関連した団体として「ハワイの東西センター」というのがありと聞いています。どういう関係なのでしょうか。

長嶺： 東西センター(EWC)は、米国、アジア、および太平洋地域の人々と国家との共同研究及び対話を通じてお互いのより良い関係と理解を促進するために1960年に米国議会によって設立され、米国政府からの資金で運営されている、独立した、公共、非営利団体の教育機関です。



WUB-NW 理事会で挨拶される新会長



第15回 WUB世界大会での挨拶

「WUB奨学金制度」は、世界に在住するWUBメンバーを中心とした沖縄関係者子弟で経済的に援助を必要とし、向上心のある若い人達が、「ハワイ大学東西センター アジア・パシフィック リーダーシップ養成課程 EWC-APLP (The Asia Pacific Leadership Program)」というプログラムを利用しようとする際に、WUBとして奨学金を提供するという制度です。APLPは前期5ヶ月+後期4ヶ月からなるプログラムで、WUBスカラシップはこのうち前期5ヶ月のプログラムに対して奨学金を提供するもので、アジア・パシフィック地域の人達と共に、ホノルルにある東西センターで5ヶ月間の教育を受けることができる制度です。

小畑: 次に、WUBの活動内容ですが、基本的に各支部は支部ごとに独自に活動し、統括的な位置付けとしてWUB-NWが存在するということですね。

WUB-NWの活動としては、世界大会の主催、NW会議の開催、スカラシップの提供といったところでしょうか？

長嶺: その通りです。その他に各WUB支部への情報提供としての大事な役割があります。

＜新会長のWUBに対する思い＞

小畑: ありがとうございます。では、いよいよ本論ですが、新会長のWUBに対する思いをお聞かせください。会長の考えられるWUBスピリッツとはどのようなものでしょうか？

長嶺: WUBは、県人会とはまた違ってウチナンチュだけが集まる組織ではなく、沖縄スピリッツを持った人々が集う外に開いた組織だと考えています。WUBスピリッツとはウチナンチュという枠を超えた「沖縄のチムグクルー」を共有する精神世界であると思います。即ち沖縄スピリッツの世界です。えーく10号でも書きましたが、沖縄スピリッツとは次のようなものだと考えています。ぜひともWUBは、このような沖縄スピリッツが感じられる場を提供する組織になってもらいたいと思っております。

* 沖縄スピリッツはウチナンチュが持っている精神であり、その特徴として、ウチナンチュは我慢をするという心を持っていて、困難は継続的に起こり得るものだとそれを乗り切って行けるような特質を有している。

* また、ウチナンチュはあまり物事に悩まず、ナンクルナイサーで楽観的である。

* そして、ウチナンチュは祖先に対する敬意を持ち、祖先崇拝の精神を持っている。

* 沖縄スピリッツとは、沖縄というものを認識して心から湧き起こる気持ちであり、お互いが協力し合い助け合う精神

である。

* 沖縄スピリッツの認識のしかたは、世代の違いによっても解釈が異なり、古い世代の人達は伝統を守ることがウチナンチュ魂と表現しているが、若い人達には新しい解釈もある。共通することは、コミュニティを大切にし、お互いが精神世界を共有するということである。

* ハワイで行なわれる代表的なイベントであるオキナワン・フェスティバルを例にとれば、沖縄にルーツを持つ、持たないに拘わらず、フェスティバルに集まってくる全ての人々はイチャリバチョーデー、結いマール精神といった沖縄の心を持っており、そういう人々に共通する気持ち(魂)こそが沖縄スピリッツだと言える。

* 言い換えれば、沖縄スピリッツとは、イチャリバチョーデー(出会えば兄弟)、チムグクルー(豊かな心)、結いマール(助け合う精神)をバックボーンとして、言葉や場所が違って、一つの絆で結ばれるということでもある。

* 沖縄スピリッツには気持ちを解放するといった意味も含まれており、お互いに助け合う精神があるという思いも込められた表現でもある。

沖縄スピリッツは沖縄そのものの中にもあるが、海外の方が強いのかも知れない。

言わばノスタルジーみたいなものでもあり、夢見がちも取られるかも知れないが、自分自身も継承したいし、子供達にも継承して欲しい「故郷や祖先への想い」でもある。



川平朝清さんと長嶺新会長のお祝い会にて

＜今後の抱負＞

小畑: 沖縄スピリッツはとても奥が深いものですね。どうもありがとうございました。

最後になりましたが、新会長の今後の抱負についてお聞かせください。

長嶺: 私としては南米ボリビアでの移住者としての体験を生かし、言語の違う国々、世界各国に在住する世代や経験の違う会員の方々への繋ぎとして、ウチナンチュの「絆」である、チムグクルー(豊かな心)、イチャリバチョーデー(出会えば兄弟)、結いマール(助け合う精神)といった「沖縄スピリッツ」を会員の皆さんへお伝えする手伝いができればと願っております。

また、この度、WUB東京の皆さんのご協力によりWUB-NWのWEBサイトを構築しました。これによって、世界の何処からでも、何時でもWUB会員のみなさんが接触し、情報を提供・共有できるようになれば、お互いの気持ちが密になり、より深い信頼関係が構築されるのではないかと願っております。

小畑: 本日は真にありがとうございました。

WUB東京ナイト in 沖縄 2011 報告

WUB東京 理事 屋良 朝男

2011年10月11日午後8時過ぎ、突然、私の携帯電話が鳴り響きました。誰からかと思って電話器を見ると、上原秀樹さんからの着信で、いつもと変わらない元気な声が心地よく飛び込んできました。

上原さん：「屋良さん、これから向かいますね!」

屋良：「えっ、どこへ向かうの?」

上原さん：「WUB東京ナイトの会場ですよ!」

屋良：「念のために明日の会場を事前にチェックするの?」

上原さん：「今日、WUB東京ナイトですよ!」

屋良：「明日でしょう! 国際通りをパレードしてその足でパーティ会場入りだよな?」

上原さん：「いいえ、今日です!」

屋良：「ええー、予約は明日で入れているから食材とか準備できないよ!無理だよ!」

上原さん：「ええー、屋良さんそれは大変だ…。」

でも、屋良さん無事スタートに漕ぎ着け、ほっとした表情の屋良さん何とかかなりますよ、会場へ向かいますよ!」

屋良：「いやあー無理!無理!」

上原さん：「店長に電話して、とにかく会場を押さえて!」

こんな感じで、スケジュールの間違いに気付いたのが、「WUB東京ナイト」スタートの1時間前でした。

これまでのWUB世界大会にはトラブルがつきものとなり、それが好意的なエピソードして語り継がれてきた「WUB東京ナイト」。今回私が引き起こした失態はそれに該当するレベルを超えていました。

半泣き状態で会場へ入り、会場の設営、備品の調達を行う間に、上原さんと前田和歌子さん(国吉真理子さんの妹さんです)が到着。まさに「穴があったら入りたい」その穴に頭



左から、上原秀樹理事、前田和歌子さん(前列中央) 屋良理事

を突っ込み「頭隠して尻隠さず」とはこのような心境だと痛感しました。

和歌子さんとは初対面。この日のために、上原さんが会場に花を添える意味も含めてスカウトしていただいた運営の助っ人です。「あっ、真理子さんに似ている」と同時に脳裏に浮かんだ映像と声は「屋良さん!しっかりして!」アフリカにいるはずの国吉さんでした。



前田さん：「姉から屋良さんのうわさは聞いていますよ」

屋良：「普段はこんなじゃないですよ…」

自分自身でも訳の分からない自己紹介を済ませ、いよいよ皆様をお迎える時間となりました。

力不足の幹事をよそ目に、「WUB東京ナイト」の参加者は最終的には30名を超える盛り上がりを見せ、気が付いてみるとWUBのメンバー以外に何故か「世界のウチナーンチュ大会」のために帰郷した南米の方々(パルーの方だったと記憶しているのですが?)もご参加いただいており、チャンプルー「WUB東京ナイト」になっていました!ウチナーンチュの熱い魂が世界から国際通りのこの店に集結した感じです。



なごやかな雰囲気「WUB東京ナイト」

出だしは大変だった「WUB東京ナイト」も、大盛況のうち無事終了。ほっと胸をなで下ろした夜でした。

最後に皆様大変ご迷惑をお掛けしましたことお詫びし、運営にご協力をいただきましたWUB東京の皆様へ深く感謝申し上げます。特に上原秀樹さんの決断力のある後押しには救われました。

「なんくるないさあ〜」は「なんくるや、ならなん!」勉強させていただきました。

ありがとうございます。(合掌)

2011年《6月》7日／霞ヶ関東海大学校友会館にて総会開催。東日本大震災の影響等で通常より約1ヵ月遅れの総会となりました。



《8月》ティーダキッズプロジェクト実行委員会主催ティーダキッズプロジェクトに際し、賛同者として名前を連ね、呼びかけに協力しました。

《9月》8日／大久保IT健保会館にてWUB-KOI合同例会開催。WUB東京と関東沖縄IT協議会(KOI)との初合同例会！牧志 WUB-NW 会長を始め、50名を超える参加者と共に交流を深めました。



《10月》1日／銀座いいあんべにてWUB世界大会&ウチナンチュ大会キックオフミーティング開催。



11日／ホテルロイヤルオリオンにてWUB-NW 理事会開催。長嶺爲泰 WUB 東京名誉会長の次期WUB-NW 会長への就任が決定されました。

12日／ホテルロイヤルオリオンにて

第15回 WUB 世界大会開催。前原信一沖縄テレビ放送元常務の基調講演、各国支部代表のパネルディスカッションで活発な意見が交換されました。

13日～16日／第5回ウチナンチュ大会開催。



WUB 東京 フラッシュバック 《11年5月～12年4月》

《12月》16日／忘年会開催。昨年に引き続き、ペルー料理店アルコイリスで、お食事もお酒も会話も堪能しました！



2012年《1月》1日／長嶺

爲泰 WUB 東京名誉会長が、正式に WUB-NW 会長に就任。各国支部長宛てに新年と就任のご挨拶が発信されました。これから、WUB 東京も長嶺会長をサポートしていきます！

6日／沖縄県人会事務所にて、「川平朝清さんの沖縄県功労者受賞&長嶺爲泰さんの WUB-NW 会長就任を祝う会」実行委員会開催。東京沖縄県人会と WUB 東京が共催する初イベントです。

《2月》25日／霞ヶ関東海大学校友会館にて「川平朝清さんの沖縄県功労者受賞&長嶺爲泰さんの WUB-NW 会長就任を祝う会」開催。WUB 東京、東京沖縄県人会、ニライ会、沖縄ニライ会、関東沖縄経営者協会、関東沖縄 IT 協議会が呼びかけ人となり、140名を



超える出席者とともに、川平会長のこれまでの功績を讃え、長嶺会長のご活躍にエールを送りました。当日は、ルイス・マサル・ヒガ駐日ボリビア多民族国特命全権大使のご臨席を賜り、和やかな雰囲気の中、那那嶺理香さんのヴァイオリンによる感動的なボリビア国歌演奏が行なわれました。

《3月》名嘉幸照会員が東日本大震災の記録を続めた小冊子「震災のあたり」を発刊されました。

16日／今井恒子会員が角川書店から自叙伝「ウミンチュの娘」を上梓され、出版記念会が催されました。



■新入会員紹介

●初めまして福原和美と申します。1950年11月11日生、出身地は沖縄県伊江島です。



入会のきっかけは、大城友宏氏です。「人との出会いは自分を成長させる」その一言で入会を決意、色々な場面で人との関わりを尊重して来られた大城氏のご紹介で、私は他の会でも素晴らしい人達に出会いました。感謝です。私は事業をやっている訳ではないのですが、夫の経営する会社で働いています。皆様の発信する情報をプラスに、前進したいと思います。今後も成長をさせて頂きたいと思いますので、WUB 東京の皆様、これからも宜しくお願いします。



●田中真理子と申します。生まれは首里当蔵町。育ちは嘉手納と浦添です。東京出身の両親ですが、在沖中の本籍は読谷村でした。

WUB 東京との御縁は、2004年1月17日の新年会に始まります。以来、度々、例会や、BJリーグの応援に混ざっていただきました。そして、この度、先輩にご紹介をお願いし、正式入会を希望したわけですが、その「動機」は… カッコつけて申

情報発信 掲示板

せば、WUB 東京の理念に共感したから！であります。が、単純な本音は、WUB メンバーの皆様方の、オープンかつ闊達な雰囲気が好きだから、です。昨年春に一念発起し、介護の勉強し、現在、施設の介護職に従事しています。

■法人会員代表交代のお知らせ

高原英明様が株式会社金秀本社の東京営業所所長として2011年2月に着任され、代表の交代がありました。



■編集後記



今回は昨年の轍を踏まないよう、年が明けてすぐ1月11日には編集作業に着手した。テーマ決めもスムーズに行き、執筆者も難なく決まって作業は順調に推移した。

若干、文字数オーバーの原稿もあったが、執筆者のご協力と嶺山様のご尽力でうまく収まりがかった。予定どおりの日程で発行に漕ぎ着けることができ、ほっとしている。

会員の皆様からの近況報告やイベントや商品等の告知、ご意見等をお待ちいたしております。どしどしお寄せください。